

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 鮫島弘光	提出日：平成 23 年 9 月 10 日
東南アジア研究所における職名：特定研究員 * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・ ポスドク ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名)： マレーシア・サラワク森林局 Mohamad Kodi 氏 マレーシア・サラワク大学東アジア研究所 Mohamad Rasid 氏 * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学・研究機関・企業・その他)	
派遣期間：平成 23 年 7 月 29 日 ~ 平成 23 年 8 月 30 日 (派遣日数：33 日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) ①研究・実験、② フィールドワーク 、③ セミナー 、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) ①人文学、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥ 生物学 、⑦農学、⑧医歯薬学、⑨総合領域、⑩複合新領域	
派遣の概要(500~700 字程度) 7 月 30 日~8 月 29 日 マレーシア・サラワク州・ビンツール Sarawak Planted Forest 社・Zedtee 社などのコンセッションにおけるカメラトラップ調査 石川基盤 S 他メンバーとの共同調査	
事業に係る研究成果(500~700 字程度) 5 月の出張時に Zedtee 社の択伐コンセッションに設置した自動撮影カメラのデータを回収した。すでに 25 種類の中大型野生動物の動画データを取得することができた。来年度まで継続調査を行い、持続的森林管理による生物多様性維持を評価する論文として執筆する予定である。また他のメンバーのアナツバメ(藤田素子)、オイルパームプランテーション(定道有頂、生方史数)、河川(徳地直子、福島慶太郎)、文化人類学(加藤裕美)、農業(市川昌弘)調査をアレンジ・同行し、基盤 S の調査地域であるクムナ川・タタウ川流域の全体像の把握に努めた。	